

# 事故防止に向けた安全対策 【ハンドボール】

## 1 競技特性

### (1) 実技指導書等を参考に、競技の特性や特徴を記載する

ハンドボールは、「走る・跳ぶ・投げる」という基本的な運動形態で構成される。攻防のあるスポーツであるため運動能力と敏捷性が要求され、運動能力全般を高めるのに適している。比較的ルールが簡単のため誰でもゲームに熱中できる。ボールを持つての移動が3歩まで許されるので、ゲームはスピーディでスリリングに展開され、時には激しくぶつかり合うこともあるため、エキサイティングなゲーム展開となる特性を有している。サイド側のラインが40m、ゴール側のラインが20mの長さの比較的広いコートの中で、スピード感あふれる動きと、攻防における相手とのコンタクトの中で、ジャンプしたりカットインしたりクロスプレーからの展開で相手ゴールにシュートし得点を競い合うスポーツである。

### (2) 競技特性に応じた事故の特徴を記載する

激しくぶつかり合うスポーツのため、転倒し頭部を床に打つ、シュート性のボールが顔面に当たり目を損傷する等のけがが多い。また、スピーディな展開を多く要するスポーツのため、関節の靱帯損傷なども事故として多い。

### (3) 過去の重大事故例等を記載する

ハンドボールゴールが固定されずに活動していたため、ゴールポストにぶら下がる行為や、風等の影響により、頭部に当たり死亡する事例が発生している。

## 2 想定される事故事例と予防策

### (1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"><li>・外コートのゴールにぶら下がり倒れて下敷きになる</li><li>・ベンチや得点版の設置は安全が確保されていない</li><li>・ボールがコート内に散乱している</li><li>・ほこり、汗や飲み物によって床が滑りやすくなっている</li><li>・他の部活動と校庭や体育館を共有する際、ボールが活動範囲より外に飛んだり、転がったりしている</li><li>・隣のコート（他競技）との距離が近く対人接触が起こる可能性がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・骨折、脳震盪</li><li>・打撲、骨折</li><li>・捻挫</li><li>・捻挫</li><li>・脳震盪、捻挫</li><li>・脳震盪、打撲</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ゴールの固定、運搬は3人以上で運ぶ</li><li>・コートから離れた適切な距離に設置する</li><li>・ボールを拾う生徒の配置、ボールケースへの収納、声掛け</li><li>・プレーを止め、モップ、雑巾等で拭く</li><li>防球ネットの設置、声掛け</li><li>・安全な距離の確保</li></ul>

## (2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・速攻練習時の接触事故</li> <li>・装身具（ネックレス、ヘアピン）をつけて活動している</li> <li>・爪が長い</li> <li>・急激な動きによる筋や腱の損傷</li> <li>・フットワーク時のけが</li> <li>・休憩のない活動時間</li> <li>・不注意による人体の衝突</li> <li>・複数個所からシュート練習による、ゴールキーパーへの直撃</li> <li>・ディフェンス側がシュートブロックの際に、顔面にボールが当たる</li> <li>・シュート体制に入ったところをディフェンスと接触し、バランスを崩して腰から落ちた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳震盪、打撲</li> <li>・擦過傷</li> <li>・爪の剥離、相手への擦過傷</li> <li>・肉離れ、アキレス腱断裂</li> <li>・足首、膝の炎症、捻挫</li> <li>・熱中症</li> <li>・打撲、骨折、内臓破裂</li> <li>・打撲、骨折、眼球の損傷</li> <li>・眼球の負傷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方通行または前の人が終わってから開始する</li> <li>・活動前に確認する</li> <li>・活動前に確認する</li> <li>・十分なウォーミングアップ、普段のトレーニング方法の見直し</li> <li>・過度の練習により疲労感を貯めない</li> <li>・適度な休息と水分補給を行う</li> <li>・約束事の徹底。コンタクト時には後方、側方からつかむ、押すなどの危険な行為は行わない。</li> <li>・シュートの順番を決め一人ずつ行う</li> <li>・ブロックをかわしてシュートをするなどの技術を習得する。</li> </ul>

## (3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
(例) <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温多湿の環境下や長時間にわたる練習による熱中症</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	熱失神、熱疲労、熱けいれん、熱射病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境状況に応じた運動、休憩、水分補給等の計画を立てる</li> <li>・冷房が使用可能な施設においては積極的に使用する</li> <li>・効率的な換気を行う</li> </ul>